IQNet はグローバルな経済活動を行う組織のために革新的な認証サービスの開発に努めています

IQNet 事務局長
トニー・ディ・パルマ氏

IQNetは認証機関の国際的なネットワークで、そのネットワークを構成する37のパートナー認証機関の事務所は、世界150カ国以上に存在し、パートナー全体で30万件を超える認証件数を持つ。JQAはこのIQNetのパートナーであり、IQNetを通じてグローバル認証サービスを提供している。先ごろ来日したIQNetの事務局長トニー・ディ・パルマ氏に、世界の認証規格に関する最近の動向とIQNetの新しいサービスについて聞いた。

第三者認証規格の中でも現在めざましい成長をしているのは、特定分野のセクターの規格です。具体的には、食品衛生分野の規格であるISO 22000やIT分野の規格、鉄道関連のIRISなどの認証取得が増えています。IQNetの主力サービスであるSA8000も、特定の市場や地域で人気が高まっているものの一つです。

SA8000のSAは社会的説明責任(Social Accountability)の略で、企業の倫理的側面、特に労働者の人権や雇用環境に特化した認証規格です。具体的には、児童労働や強制労働の撤廃、労働者の健康と安全、団結権などについて、第三者機関の審査によって認証するものです。主に開発途上国において、国際企業が労働者の権利について配慮していることを示すために認証取得するケースが増えています。

IQNetでは、SA8000とは別に、類似のサービスとしてBSCI(Business Social Compliance Initiatives)というサービスも用意しています。こちらはグローバルな取引を行う組織が、リスクの高い国々のサプライヤーの社会的責任についてモニターするための規格であり、先進国、開発途上国にかかわらずサプライチェーンの管理が求められる組織の方々におすすめします。SA8000との違いは、BSCIが主要な世界的な小売業者によって運営されているサプライヤー監査のスキームであることです。

さらに、今後有望と考えられるのがアレルギー物質に過敏に反応する消費者のためのアレルゲン・マネジメントに関するプログラムです。多くの国で食の安全性に関心が高まり、またアレルギー物質に敏感な人が増えているなか、アレルギー物質に対する接触の管理を適切に行うことが重要になっています。アレルゲン・マネジメントは、食品、化粧品、薬品などのメーカーやホテル、飲食店などで、製品に含まれるアレルギー物質の種類や量についての情報開示、アレルギー物質を最小限に抑えるための取り組みが行われているかをモニターし、適正な管理をしている組織に認証ラベルを交付するというスキームをもっています。

このほかにも事業継続に関するスキームや、マネジメントシステムのパフォーマンスのレベルを世界の同業種の組織と比較できるベンチマークのスキームなども、今後の伸長が期待できる分野です。

IQNetは、IAFやISO/CASCOに対しても、リエゾンメンバーとしてさまざまな働きかけをしています。今後も、グローバルな経済活動を行う組織のために革新的な認証サービスの開発に努めていきます。■

IQNetとは:

- 1990年に設立され、世界37カ国の認証機関、200カ所以上の海外事務所／現地法人で構成されたネットワーク。
- 世界150カ国以上にわたり31万件の認証実績を持ち、全世界の認証件数の約3分の1を占める世界最大のネットワーク。
- メンバーの65%が自国内でNo.1のシェア(うち半分はシェア30%)を有している、各国を代表する認証機関で構成されている。
- メンバー間で定期的に相互審査を実施することにより、同等性を維持し、メンバー間の審査の一貫性の確保、審査技術の継続的改善を図っている。